

シネラ

fiaf

国際フィルム・アーカイヴ連盟=FIAFは
映画の保存を目的とする国際団体です。
福岡市総合図書館はFIAFの会員です。

君の名は

松竹110周年祭

特別企画

日本を代表する映画会社の歴史をたどるシリーズ企画第4弾
松竹映画の歴史的な作をテーマ別に選定して上映

■上映(全23作品)

風景 (懐かしい日本の風景と、旅の思い出。)

- カルメン故郷に帰る
- 集金旅行
- 挽歌

暮らし (親と子。そして、郊外住宅地の幸福。)

- 砂の器
- 東京物語
- 今日もまたかくてありなん

女優 (銀幕に映える、美しい女優たち。)

- 暖流
- 晩春
- 君の名は (総集編)
- わが愛

はつ恋 (忘れられない初恋と青春。)



- 下町の太陽
- 野菊の如き君なりき

きもの (着物の美しい女性たち。)

- 簪
- 古都
- 秋津温泉

伝統 (時代劇と日本の伝統美。)

- 天守物語
- 元禄忠臣蔵 (前編)
- 元禄忠臣蔵 (後編)
- 残菊物語

銀座 (都会といえば銀座だった。)



- 花籠の歌
- 信子

武満徹の音楽 (生誕75周年記念)

- 乾いた花
- 紀ノ川 (前編・後編)



Ciné-là

松竹110周年祭

特別企画

日本を代表する映画会社の
歴史をたどるシリーズ企画第4弾。
1895年創業以来、110周年を迎えた
松竹映画の歴史的名作をテーマ別に
選定して上映。

8月2日(水)～27日(日) ※ 休館日・休映日除く

観覧料: 1,000円(当日1回券) 4,000円(当日5回券)
800円(前売り1回券) 3,500円(前売り5回券)

主催: 福岡市総合図書館、映像ホール・シネラ実行委員会、松竹株式会社
作品選定アドバイザー: 川本三郎(評論家)

風景
懐かしい日本の風景と、旅の思い出。

カルメン故郷に帰る

●8月17日(木) 17:00
●8月20日(日) 11:00

1951年/35ミリ/カラー/86分/松竹

監督: 木下恵介 出演: 高峰秀子、佐野周二

日本最初のカラー映画であり、以後幾多の名作を世に送り出す監督・木下恵介、主演・高峰秀子コンビの最初の作品。自称芸術家のストリッパーが休みを利用して、仲間と共に故郷の田舎町に里帰りしたことで巻き起こる騒動を描いた人情喜劇であり、当時の風俗を巧みに盛り込み、その中到的確な人間描写が盛り込まれた名作。



挽歌

●8月11日(金) 14:00
●8月12日(土) 11:00

1957年/16ミリ/モノクロ/127分/松竹

監督: 五所平之助 出演: 久我美子、斎藤達雄

関節炎を患って以来左手が不自由な怜子は、妻子ある建築技師の桂木と出会う。屈折していた怜子は次第に桂木に惹かれていく。当時大ベストセラーとなった小説の映画化作品。北海道・釧路の広大な風景を舞台に描かれる切ないラブ・ロマンス。



集金旅行

●8月10日(木) 17:00
●8月12日(土) 17:00

1957年/35ミリ/カラー/102分/松竹

監督: 中村登 出演: 佐田啓二、岡田茉莉子

良平はアパートの未払い家賃の集金のため、千代は慰謝料の請求のため、二人は同行しながら中国地方へ向かう。最初は仲違いをしていた二人だが、次第に恋仲になっていく。井伏鱒二の同名小説の映画化作品。岡田茉莉子松竹専属第一回作品でもある。ラストの阿波踊りが狂巻のコメディ映画。



砂の器

●8月 9日(水) 14:00
●8月12日(土) 14:00

1974年/35ミリ/カラー/143分/松竹

監督: 野村芳太郎 出演: 丹波哲郎、加藤剛

松本清張原作の社会派ミステリーを野村芳太郎監督、橋本忍脚本で映画化した日本映画史に残る名作の一つ。東京蒲田駅の操車場で身元不明の男が殺されていた…。松本清張が自身の映画化作品で原作を上回ると評した作品であり、サスペンスタッチの前半と犯人の悲しい生い立ちを交響詩「宿命」にのせて叙情的に描いた後半という構成も見事な作品。



東京物語

英語字幕付き

●8月 2日(水) 14:00
●8月 5日(土) 14:00

1953年/35ミリ/モノクロ/136分/松竹

監督: 小津安二郎 出演: 笠智衆、原節子

田舎で暮らす老夫婦が独立して東京で暮らす子供たちを訪ねて上京するが…。この作品について監督の小津安二郎は「親と子の成長を通じて、日本の家族制度がどう崩壊するかを描いてみた」という。戦後の小津映画の一つの到達点であり、日本映画を代表する名作の一つとして世界的な評価も獲得している名作。



今日もまたかくてありなん

●8月11日(金) 17:00
●8月13日(日) 17:00

1959年/35ミリ/カラー/73分/松竹

監督: 木下恵介 出演: 高峰秀子、久我美子

湘南の近くに家を建てた平凡なサラリーマンが、借金返済のため会社の部長に家を貸すことにする。自分は同僚のアパートに転がり込み、妻と子供は軽井沢の実家で暮らすことに。しかし一家はヤクザとのトラブルに巻き込まれる。高度経済成長を目前にした時代、サラリーマンの悲哀を風刺した作品。



暖流

●8月17日(木) 14:00
●8月19日(土) 14:00

1939年/35ミリ/モノクロ/124分/松竹

監督: 吉村公三郎 出演: 佐分利信、高峰三枝子

病院の経営再建を巡って院内で展開される権力抗争を背景に、院長令嬢、医師、看護婦らの絡み合う愛憎が鮮烈に描かれる。劇作家・岸田國士の長編小説を脚色したラブ・ロマンスの傑作で、吉村公三郎監督がもてる技法のすべてを投入した代表作。177分のオリジナル版は現存せず、124分の総集編を上映。



晩春

英語字幕付き

●8月 2日(水) 17:00
●8月 5日(土) 17:00

1949年/35ミリ/モノクロ/108分/松竹

監督: 小津安二郎 出演: 笠智衆、原節子

その後、小津作品における重要な俳優の一人となる原節子を最初に起用した作品であり、戦後の彼のスタイルの出発点であり、その様式を完成させたという意味に置いて重要な作品。父一人、娘一人のために、娘の婚期が遅れていることを気にする父親、一方で娘は自分が嫁ぐと父が一人となると心配していた…。



君の名は(総集編)

●8月23日(水) 14:00
●8月27日(日) 14:00

1953～54年/35ミリ/モノクロ/185分/松竹

監督: 大庭秀雄 出演: 岸恵子、佐田啓二

「君の名は」は連続ラジオドラマとして人気を博し、岸恵子、佐田啓二主演で映画化し、空前の大ヒットとなった。戦争末期、氏家真知子と後宮春樹は東京、数寄屋橋で運命的な出会いを果たす。相次ぐ空襲により互いの名も告げず、半年後の再会を約束して別れた二人だが…。今回の上映は三部作をまとめた総集編。(5分間の途中休憩あり。)



わが愛

●8月 9日(水) 17:00
●8月13日(日) 17:00

1960年/35ミリ/カラー/97分/松竹

監督: 五所平之助 出演: 有馬稲子、佐分利信

敗戦から4年経ったある秋の夜。新聞記者・新津の通夜に見知らぬ美しい女性が現れる。きよと名乗るこの女性は、17才の頃から新津を思い続けていたという。井上靖の小説「通夜の客」を映画化した作品。「愛とは何か」を問うメロドラマの名作。



暮らし
親と子。そして、郊外住宅地の幸福。

はつ恋
忘れられない初恋と青春

下町の太陽

●8月25日(金)14:00
●8月27日(日)11:00



1963年/35ミリ/モノクロ/86分/松竹

監督:山田洋次 出演:倍賞千恵子、勝呂喜博

倍賞千恵子ヒット曲「下町の太陽」を原案とし、彼女自身の主演による歌謡映画で、この作品が初の長編となる山田洋次が監督。当時の歌謡映画のスタイルにとらわれず、下町に生まれ育った若い女性が恋人や家族、友人たちとの交流や、様々な事件を通じて自分自身を見直していく姿を、力強く前向きに描いて佳作とした。

野菊の如き君なりき

●8月16日(水)14:00
●8月20日(日)14:00



1955年/35ミリ/モノクロ/92分/松竹

監督:木下恵介 出演:有田紀子、田中重二

アララギ派の歌人、伊藤左千夫の「野菊の墓」を戦後日本映画を代表する監督、木下恵介が手掛けた叙情的な作品。信州の千曲川ほとりの旧家、15歳の政夫は従妹の民子と仲がよいが、それを兄嫁や村のものたちの中にはそうした二人を快く思わないものもいた。戦前の封建的な家と閉鎖的村社会の中で起こる悲劇を描いた名作。

簪

●8月24日(木)18:00
●8月26日(土)11:00



1941年/35ミリ/モノクロ/70分/松竹

監督:清水宏 出演:田中絹代、川崎弘子

身延山への参詣客で賑わう下部温泉のある旅館。帰還兵の野村が湯につかっていると、かんざしが足に刺さって大けがを負ってしまう。お詫びにきたかんざしの落とし主・恵美に、野村は恋心を抱く。井伏鱒二のユーモア溢れる原作を、清水宏監督が巧みに演出した作品。

古都

●8月18日(金)14:00
●8月19日(土)17:00



1963年/35ミリ/カラー/105分/松竹

監督:中村登 出演:岩下志麻、吉田輝雄

方や裕福な京都の呉服屋の娘。方や山村の貧しい家庭の娘。二人は双子の姉妹であり、お互いまったく知らずに育てられた。成人した二人は偶然出会うのだった。川端康成の同名小説の映画化作品。岩下志麻が二役を好演する叙情的な恋愛映画。

秋津温泉

●8月16日(水)17:00
●8月19日(土)11:00



1962年/35ミリ/カラー/112分/松竹

監督:吉田喜重 出演:岡田茉莉子、長門裕之

藤原審爾の原作を岡田茉莉子が自ら企画し、松竹ヌーベルヴァークの旗手の一人、吉田喜重を監督に登用した異色作。終戦の直前、秋津温泉の旅館の娘・新子は、結核に冒され死を決意して秋津に来た周作と出会う。新子の人柄に心動かされ、死を思いつとめる周作。二人はやがて惹かれあうようになるが…。

元禄忠臣蔵(前編)

●8月 3日(木)14:00
●8月 6日(日)11:00



1941年/35ミリ/モノクロ/112分/興亜映画

監督:溝口健二 出演:河原崎長十郎、中村砥右衛門

忠臣蔵を題材にした戯曲の中で最高傑作とされる真山青果の原作を、巨匠・溝口健二が映画化した作品。前編では浅野内匠頭が吉良上野介に斬りかかり、お家断絶となった浅野家老・大石内蔵助が江戸に向かうまでを描く。時代考証を徹底に行い、松の廊下を原寸大に再現したことはあまりにも有名。

元禄忠臣蔵(後編)

●8月 4日(金)14:00
●8月 6日(日)14:00



1942年/35ミリ/モノクロ/107分/松竹

監督:溝口健二 出演:河原崎長十郎、中村砥右衛門

前編に続き後編では討ち入りを果たした四十七士が、切腹をして本懐を遂げるまで描かれる。真山青果の原作が史実を忠実に生かしたものであり、本作にも討ち入りの場面はなく、「討ち入りのない忠臣蔵」と呼ばれた。セットの建築を新藤兼人が担当している。

天守物語

●8月 3日(木)17:00
●8月 5日(土)17:00



1995年/35ミリ/カラー/105分/松竹

監督:坂東玉三郎 出演:坂東玉三郎、宮沢りえ

白鷺城と呼ばれる城の天守に魔物と共に暮らしている富姫。鷹を追って迷い込んできた侍・図書之介に好意を抱いた富姫は、彼を下界に戻したくなる。泉鏡花の幻想的な世界を美しく見事に映画化した作品で、坂東玉三郎が歌舞伎の得意演目を自ら監督した作品でもある。

残菊物語

英語字幕付き

●8月10日(木)14:00
●8月13日(日)14:00



1939年/35ミリ/モノクロ/143分/松竹

監督:溝口健二 出演:花柳翠太郎、森静子

明治初期の歌舞伎界を舞台にした作品。芸の未熟な菊之助は、彼を愛するお徳に献身的に支えられながら、旅回りの修行の中で一人前に成長していく。「祇園の姉妹」と並ぶ溝口監督の戦前の代表作であり、芸道ものの傑作。

花籠の歌

●8月 4日(金)17:00
●8月 6日(日)17:00



1937年/35ミリ/モノクロ/69分/松竹

監督:五所平之助 出演:田中絹代、佐野周二

銀座のトンカツ屋の一人娘の洋子は店を手伝い、看板娘として評判だった。常連の学生、小野はそんな洋子に気があり、洋子もまんざらでもない。そんなとき、叔母が洋子の見合い話を持ってきて…。人気絶頂期にあった田中絹代主演による大船調と呼ばれた松竹得意の喜劇調のホームドラマ。

信子

●8月25日(金)18:00
●8月26日(土)18:00



1940年/35ミリ/モノクロ/90分/松竹

監督:清水宏 出演:高峰三枝子、三浦光子

九州の田舎から東京の封建的な女学校に赴任してきた体操教師・信子が、物怖じしない明るさで、真の教育とは何かを問いかけ、学校を変えていく様を描いた作品。獅子文六の女性版「坊ちゃん」ともいえる原作の映画化。当時生まれた「あんみつ」が映画に登場する。

乾いた花

●8月18日(金)17:00
●8月20日(日)17:00



1964年/35ミリ/モノクロ/96分/松竹

監督:篠田正浩 出演:池部良、加賀まりこ

石原慎太郎の原作を篠田正浩が監督、大ヒットした作品。刑務所から出所したばかりの村木は、賭場で謎の少女、冴子と出会う…。無機質で底知れぬニヒリズムを秘めた演出で、篠田監督の技巧派としての評価を決定づけた傑作。

紀ノ川(前編・後編) 英語字幕付き

●8月24日(木)14:00
●8月26日(土)14:00



1966年/35ミリ/カラー/172分/松竹

監督:中村登 出演:司葉子、岩下志麻

有吉佐和子の原作を中村登が監督した女性映画の大作。明治32年、紀本花は和歌山県の紀ノ川沿いの旧家・真谷家へ嫁ぎ…。紀ノ川の美しい自然と激動の時代を背景に「家」のために生きた母とその母にことあるごとに反発する進歩的な娘の姿を描いた中村登の代表作。(5分間の途中休憩あり。)

きもの
(着物の美しい女性たち)

伝統
時代劇と日本の伝統美

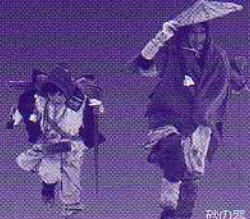
銀座
(都会といえは銀座だった)

武満徹の音楽
生涯75周年記念

* 定員制。各回入替制。

* 障がい者及び福岡市在住の65才以上の方は500円(手帳の提示が必要です。)

* 前売り券は下記で7月5日(水)より販売。
アトリエ (博多リレイン地下2階 電話281-0103)
博多駅マインプレイガイド(博多駅1階 電話431-1125)
総合図書館映像ホール(映画の上映時間中)



8月

上映スケジュール

1 火
2 水
3 木
4 金
5 土
6 日
7 月
8 火
9 水
10 木
11 金
12 土
13 日
14 月
15 火
16 水
17 木
18 金
19 土
20 日
21 月
22 火
23 水
24 木
25 金
26 土
27 日
28 月
29 火
30 水
31 木

休館日

(14:00) 東京物語 (17:00) 晩春

(14:00) 元禄忠臣蔵(前編) (17:00) 天守物語

(14:00) 元禄忠臣蔵(後編) (17:00) 花籠の歌

(11:00) 晩春 (14:00) 東京物語 (17:00) 天守物語

(11:00) 元禄忠臣蔵(前編) (14:00) 元禄忠臣蔵(後編) (17:00) 花籠の歌



元禄忠臣蔵(後編)

休館日

休映日

(14:00) 砂の器 (17:00) わが愛

(14:00) 残菊物語 (17:00) 集金旅行

(14:00) 挽歌 (17:00) 今日もまたかくてありなん

(11:00) 挽歌 (14:00) 砂の器 (17:00) 集金旅行

(11:00) わが愛 (14:00) 残菊物語 (17:00) 今日もまたかくてありなん



天守物語

休館日

休映日

(14:00) 野菊の如き君なりき (17:00) 秋津温泉

(14:00) 暖流 (17:00) カルメン故郷に帰る

(14:00) 古都 (17:00) 乾いた花

(11:00) 秋津温泉 (14:00) 暖流 (17:00) 古都

(11:00) カルメン故郷に帰る (14:00) 野菊の如き君なりき (17:00) 乾いた花



カルメン故郷に帰る

休館日

休映日

(14:00) 君の名は(総集編)

(14:00) 紀ノ川(前編・後編) (18:00) 替

(14:00) 下町の太陽 (18:00) 信子

(11:00) 替 (14:00) 紀ノ川(前編・後編) (18:00) 信子

(11:00) 下町の太陽 (14:00) 君の名は(総集編)



わが愛

休館日

休映日

休映日

休館日



晩春

特集
土本典昭監督 特集

水俣病発見から50年。水俣病を記録し続け、国内だけでなく世界的な評価を得た土本監督の回顧上映。

9月6日(水)~15日(金) ※休館日・休映日除く

上映作品

- ある機関助手
- よみがえれカレース
- みなまた日記 甦る魂を訪ねて ほか 全11作品

収蔵作品 特集

アジアフォーカス・福岡映画祭2006協賛企画 タイ国王在位60周年記念
チャード・ソンスー監督 回顧展
タイ映画の巨匠チャード・ソンスー監督の回顧上映。

9月16日(土)~24日(日)

※休館日・休映日除く

上映作品

- 傷あと
- プアンとベーン
- ムアンとリット ほか 全7作品



ムアンとリット

次号
予告

I N F O R M A T I O N

■ ホームページ「うえぶシネラ」をご覧ください。

● うえぶシネラ アドレス <http://www.cinela.com>

■ 交通アクセス

当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

地下鉄：西新駅または藤崎駅から徒歩15分

西鉄バス：*天神~都市高速経由~福岡タワー南口(所要時間：昼間で約20分) *博多駅~都市高速経由~福岡タワー南口(所要時間：昼間で約25分) 福岡タワー南口バス停から徒歩3分。いずれも、昼間は10~15分間隔で運行されていますので、大変便利です。お近くのバス停からご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

福岡市総合図書館
映像ホール・シネラ

〒814-0001

福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館

(代表) 092 (852) 0600

映像資料課 092 (852) 0608

FAX 092 (852) 0609

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

ホームページアドレス

<http://www.cinela.com>

特別企画

松竹110周年祭

おすすめ

暖流

8月17日(木) 14:00

8月19日(土) 14:00

志摩病院は経営危機に陥っており、院長は経営立て直しのため若い実業家の日足(ひびき)に再建の全責任を任せる。再建の最大の障害は、副院長である院長の息子・泰彦の浪費癖であり、日足は泰彦に自由にお金を使えなくしてしまう。院長の娘・啓子に若い医師の笹島が結婚を申し込んでいたが、笹島は院内の看護婦と関係を持っていた。病院内の複雑な人間関係が分からない日足は、信用できる看護婦の石渡さんをスパイ役に任命し、情報収集を図る。ざんは啓子と小学校の同級生であり、仲がよかった。しばらくして院長が死亡。日足の強引な手法により、病院は次第に再建する。啓子は笹島と結婚の約束をする。スパイ役のざんはいつしか日足のことが好きになってしまうのだが、役目が終わってしまうと、日足はざんに目もくれなくなってしまう。



この映画は当初当時の松竹のエース島津保次郎が監督する予定でしたが、島津の東宝移籍により、急きょ若手の吉村公三郎が監督することになりました。吉村監督はもてる演出技術のすべてを投入し、彼の代表作になりました。スピーディーな展開やモダンな会話の本作は、今見てもまったく色あせないラブストーリーの古典的名作です。特に話題となったのは主役の二人の女性、啓子とざんです。ブルジョワでインテリの現代女性、スターであった高峰三枝子演じる啓子に対し、庶民的で古いタイプの女性、若手女優の水戸光子が演じるざんが素晴らしい対比で描かれています。この映画に熱中した青年達は、どちらの女性のタイプが好きかで盛んに議論が交わされたとのこと。さて皆さんはどちらのタイプがお好きでしょうか。